

## 第2 教育研究団体の意見・評価

### ○ 全国英語教育研究団体連合会

(代表者 石田 健司 会員数 約60,000人)

T E L 03-3267-8583

#### 1 前文

今年で6年目となる共通テストは、2022年4月の学習指導要領の改訂に伴う新課程の下で実施されている。令和8年度の『英語（リスニング）』においても、聞き取った音声を基に内容を理解し、他の表現に言い換えたり、複数の情報を統合したりする力を問うことで、「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力等」を総合的に評価する出題がなされた。

追・再試験においても、本試験と同様に日常生活や学校生活に関連した場面に加え、講義内容を整理し他者と共有・議論する場面が設定されるなど、「聞くこと」と「話すこと[やり取り]・[発表]」を統合した言語活動を反映した出題が見られた。図表やイラストを活用した問題や複数の情報を整理する問題も多く、単なる聞き取りにとどまらず、情報を処理・判断する力が求められている点も本試験と共通している。

大問数6問、設問数37、配点や読み上げ回数についても本試験と同様であり、受験機会の公平性に配慮した構成となっている。

一方で、本試験との難易度や設問内容の差異については、受験者間の公平性の観点から検討が必要である。本稿では、これらの点を踏まえ、追・再試験の問題について分析を行う。

#### 2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

令和8年度の共通テスト追・再試験『英語（リスニング）』は以下のような構成であった。

大問	配点	マーク数	出題内容	読み上げ回数
1	28	4	A：短文内容一致問題	2
		4	B：短文イラスト選択問題	
2	12	3	対話文イラスト問題	1
3	18	6	対話文選択問題	
4	12	8	A：モノログ図表完成問題	
		1	B：複数のモノログ選択問題	
5	16	7	講義内容選択問題	
6	14	2	A：対話文（2者）選択問題	
		2	B：対話文（3者）選択問題	
合計	100			

前文でも触れたが、出題形式、配点、読み上げ回数については大きな変更は見られなかった。今年度の問題においても、イラストやグラフ、図表を活用した設問が多く、単なる聞き取りにとどまらず、様々な場面や目的に応じた思考力・判断力が問われている。また、話者についてもアメリカ人に限らず、日本人を含む多様な話者が用いられていた。さらに、各問の解答時間も十分に確保されており、受験者が落ち着いて取り組めるよう配慮された構成であった。

第1問 短い発話を聞いて、内容と合致する選択肢を選ぶ問い。Aは短い発話を聞き、短文の選択肢から正解を選ぶ問題である。Bは短い発話を聞き、その内容と合致するイラストを選ぶ問題である。

問1 発言の内容から状況を答える問題。標準的な難易度である。

問2 発言の内容から話者の状況を答える問題。動詞部分にのみ着目して聞き取ればよい。

問3 発言の内容から状況を答える問題。④の錯乱肢は最後の“for himself”までしっかり聞き取る必要がある。

問4 発言の内容から状況を答える問題。現在の状況が話者の期待とは異なっていることを聞き取る。

問5 話者の行動と合致するイラストを選ぶ問題。“over herself”からブランケットの位置を聞き取る。Sisterの位置は描写されなかった。

問6 発言の内容から話者が欲しいものと必要ないものを聞き取る問題。イラストも違いが明確で分かりやすい。

問7 発言の内容と合致する状況を選ぶ問題。後半の“brought in just the shirts”をしっかり聞き取る必要がある。

問8 描写された状況と合致するイラストを選ぶ問題。“be about to”, “needs to fasten”の2か所を聞き取る。イラストの違いも明確で分かりやすい。

第2問 日本語で書かれた場面について短い対話を聞き、その内容と合致するイラストを選ぶ問題。

問9 誕生日会のケーキを選んでいる場面。“you didn’t get one with fruit”に対する応答(“No.”)の意味を正しく理解する必要がある。イラストのフルーツとクリームの違いがやや分かりにくかったかもしれない。

問10 「女性が、棚の整理をしようとしています。」という説明があるが、男性との関係がやや曖昧。“by my favorite authors”からbookであることを把握する。また、“too heavy for bags”からboxesを選択することになる。問題の難易度としては標準的と言えるが、イラストや場面設定には改善の余地があるように思われる。

問11 授業内容を示したイラストと対話の内容を合致させる問題。本試験でも類似の出題がある。最初の発言で2つのステージについて言及されるので集中力が求められる。

第3問 第3問より音声は1回しか流れない。2.5～3往復の対話を聞き、設問に答える問題で、第2問と同様に日本語で対話の場面が記されている。対話の概要や要点を把握する力に加えて、聞き取った内容の言い換え(パラフレーズ)も求められている。

問12 夫婦が留守中のことについて話している場面。ペットを含め登場人物が多く、そのなかでdogはheと呼ばれていることや、aunt=女性であることを踏まえて解答しなければならない。やや難度は高めといえる。

問13 男性と女性が、友人たちと出かける場所について話している場面。“Too many times”という発言と錯乱肢③のbe tired of(飽きている)が合うように思えるが、続く内容から最適な解答は①be accustomed to(慣れている)となる。

問14 パソコンの購入について話している場面。標準的な難易度である。

問15 女性が不安に思っている内容を答える問題。what if～はやや高度な表現ではあるが、場面設定は非常に日常的なものであり、標準的な難易度である。

問16 会話の内容と合致する選択肢を選ぶ問題。選択肢からも聞き取るポイントを絞りやすい。

問17 スポーツ大会の予定について聞き取る問題。tomorrow, tonight, tomorrow morningなどの時を示す表現の中から“the next day”を聞き取り、選択肢の“The day after tomorrow”

と合致させる。情報量が多く、やや難度の高い問題といえる。

第4問 Aはやや長めの発話の内容から情報を整理する問題。前半は勧められた行動を示すイラストを順番どおりに並べ替える問題。イラストのうち1つは不要なものであった。後半はイベントの内容についてまとめた表に適切な選択肢を当てはめる問題だった。Bの4人の話を聞き取り、条件と合うものを選ぶ問題形式は例年どおりのものである。

問18～21 打合せの部屋までの道順を聞き取る問題。5枚のイラストのうち2枚が類似の状況（通りを渡っている場面）を示している。まず、冒頭の2文の発言から適切なものを選ぶ。続く第3文以降を聞き取り残りの3枚を並べかえる、という手順になる。非常に取り組みやすい問題である。

問22～25 行事の最新情報を聞いて表を完成させる問題。選択肢は時間と示すものと場所を示すものに分けられており、下読みがしっかりできていれば聞き取るポイントがある程度絞り込まれる。表の順番通りに発言があるので、取り組みやすい問題であるといえる。ただし、提示された表の中で、“basketball game”の場所が“schoolyard”となっていることに違和感を感じた受験者もいたかもしれない。また、選択肢は2回以上使っても良いとなっていたが、複数回使用する選択肢はなかった。

第5問 追・再試験においても、第5問では、「状況」に加え「活動1」～「活動3」が示された。各設問において、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を問う問題を、「リスニング」という試験において出題することへの創意工夫が感じられた一方で、改善すべき部分も残されていると感じた。講義の内容は環境生物学についてであった。

問27 squirrelsについての背景知識を聞き取る問題。講義のなかで該当する箇所をかなり正確に聞き取る必要がある。選択肢に示される“rodents”はかなり高度な語彙だが、講義の中で説明がある。難易度の高い問題である。

問28～31 活動1として、ワークシートの空欄に適切な選択肢を選ぶ問題。ワークシートも講義の内容を説明するものとして適切な内容が示されている。いずれの選択肢も単語（過去分詞）で、昨年度と異なり標準的なものであった。また、選択肢は2回以上使っても良いとなっていたが、複数回使用する選択肢はなかった。

問32 昨年度に続き試作問題からの出題。活動2として、講義の要約を書く準備をしている場面。講義内容について2人の発言を聞き、その正誤を答える問題。いずれも講義の一部を端的にまとめたものである。本試験でも指摘させていただいた点を再掲する。この問題の読み上げられる英文は、現在はそれぞれ一文だが、もう少し情報量を増やしても良いかもしれない。また、続く活動3では登場人物名がでてくるので、活動2においてもグループメンバーA、Bではなく名前を与えた方がより第5問の統一感が強まるのではないかと。

問33 活動3として、3人で図表を見ながらディスカッションの準備をしている場面。本問では、講義の内容を踏まえ、複数人の意見を聞き取り、図表を読み取り、選択肢の内容を読み取らなければならない。追・再試験で提示された図表は本試験と比べると項目数が少なく、平易なものであった。このような場面設定は実際の授業前後の活動とも類似性が高く、思考力・判断力を問う問題としても適切と言える。また、昨年度も指摘させていただいたが、このような出題により高等学校での授業変革が促されるという観点においても良問である。

第6問 Aでは2人の対話を聞き、問いの答えとして適切なものを選ぶ問題。「カレンダー」がテーマだった。ここでも意見をまとめたり、言い換えたりする力が問われている。一方Bではウェブサイトの運営について3人の学生が話す内容から、それぞれの立場を理解する力と、考えの根拠となる

データ（図表）を判断する力が問われた。

問34 話者の1人（Peter）が示した意見を選ぶ問題。

問35 2人の会話の最後に決めたことを選ぶ問題。いずれの問いも標準的な難易度である。

問36 会話の最後に3人の話者がどのような立場にあるかを問う問題。話者の数は昨年度と同じ3人だった。会話が終わった時点でウェブサイトを閉鎖したいと思っている人を選ぶが、態度を変化させた人はいなかった。

問37 誰がどのような発言をしたかを正確に理解する必要がある点においては、難易度は高い。ただし、いずれの図表もタイトルがはっきりしており、音声を聞く前に下読みできていれば確実に正解できる問題である。

### 3 総評・まとめ

本稿では令和8年度共通テスト『英語（リスニング）』（追・再試験）について検討してきた。問題全体としては、本試験と同様に日常生活や学校生活に即した場面を扱い、聞き取った情報を整理・判断し活用する力を問う出題がなされており、技能統合的な英語力を評価する試験として適切な構成であった。

また、「文字や音声による試験の特徴を生かしながら」、「可能な限り総合的な英語力を評価する」という方針の下、多様な場面や形式を通して思考力・判断力・表現力等を評価しようとする作問には、多大な労力と高度な専門的知見に基づく創意工夫が必要である。ここに作問者の努力に対して深い敬意と謝意を表したい。

出題形式や構成については本試験とおおむね一致しており、受験機会の公平性という観点から一定の配慮がなされていると評価できる。一方で、第5問に見られるように専門的な内容や語彙を扱う設問や、第3問のように情報量の多い問題も含まれており、一部の設問においては本試験と比較した際の難易度差が生じる可能性も考えられる。

リスニングテストにおいて思考力・判断力を問うことは重要であるが、図表やワークシートを用いた問題において複数の情報を同時に処理する場合、リスニング能力以外の要素が得点に影響する可能性がある。また、言い換えを伴う設問では、一度の聞き取りでの対応が難しい場合も見られた。

難易度の調整に当たっては、情報量や作業量の増加ではなく、語彙や話題の抽象度、発話速度などを工夫することで、「聞く力」を適切に測ることが望ましい。追・再試験においては、本試験と同等の評価が行われることが求められるため、今後も難易度や負荷のバランスに十分配慮した作問が期待される。

### 4 今後の共通テストへの要望

報告書（本試験）の方に記載。